

第1章 目指す子どもの姿

- 1 四日市市が進める教育の基本的な考え方
- 2 基本目標の達成状況



1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

「輝く よっかいちの子ども」実現に向けて

子どもたちが将来生きていく社会は、多様で変化が激しく一層複雑化し、解決の道筋が明らかでない問題が多く存在すると予想されます。そのため、子ども自身が身に付けた知識・技能を実生活で応用するとともに、他者と協働しながら問題を解決していく主体的・能動的な能力としての「社会人になっても通用する問題解決能力」の養成が必要です。

また、教育活動全体を通して、子ども一人一人の実態や課題を踏まえ、豊かな人間性と感性を培うこと、さらに仲間づくりを進めるなかで、集団の中での協調性や他者を思いやる心を育むこと、個々の自主性・自立性を育てること、人権尊重の意識を醸成することが大切です。

本市では、「四日市市教育大綱」を定めるとともに、本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画として「第3次四日市市学校教育ビジョン」を策定し、「社会人になっても通用する問題解決能力」を身に付け、学校での学びを自分自身の人生の充実・幸せや将来の社会貢献につなげていく「輝く よっかいちの子ども」の育成を目指しています。

○四日市市教育大綱 ～5つの理念～

- 1 社会人になっても通用する問題解決能力の養成
- 2 豊かな人間性と健やかな体の育成
- 3 夢や志の実現に向け、自ら学び続ける意欲・態度の涵養
- 4 家庭、地域、学校・行政が連携・協働した教育の実現
- 5 都市の特長を生かした四日市ならではの教育の推進



○第3次四日市市学校教育ビジョン ～6つの基本目標～

「子どもにつけたい力」

- 基本目標 1. 確かな学力の定着
- 基本目標 2. 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成
- 基本目標 3. 健康・体力の向上

「子どもを支える学校づくり」

- 基本目標 4. 学校教育力の向上
- 基本目標 5. 地域とともにある学校づくり
- 基本目標 6. 四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進





四日市市の教育理念を実現するための基本的

目指す子どもの姿

輝く よっかいちの子ども

生きる力

子どもたちが、夢や志を持ち、学ぶことと社会とのつながりを意識しながら、自立した人間としてたくましく生き抜くための力

共に生きる力

多様性を尊重する心や豊かな人間関係を育むためのコミュニケーション能力などを身に付け、他者と協働し、共に未来を切り開いていく力

社会人になっても通用する問題解決能力

自身が身に付けた知識・技能を実生活で応用するとともに他者と協働しながら問題を解決していく主体的・能動的な能力

確かな学力

- ▶ 基礎的・基本的な知識及び技能
- ▶ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力
- ▶ 学ぶことと社会とのつながりを意識しながら主体的に学習に取り組む意欲と態度

豊かな人間性とコミュニケーション能力

- ▶ 自律的に活動する力、規範意識
- ▶ 豊かな感性、優しさ、思いやり
- ▶ 多様性を尊重し、他者と協働しながら創造的に生きる態度
- ▶ ものごとを最後までやり遂げる粘り強さ
- ▶ 豊かな人間関係を育むためのコミュニケーション能力

健康・体力

- ▶ 生涯を通じて心身ともに健康でたくましく生きるための体力
- ▶ 運動やスポーツに親しむ気持ち、発達段階に応じた運動習慣
- ▶ 心と体を健やかに育む基本的な生活習慣の確立

学校教育力の向上

地域とともにある学校づくり

四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進

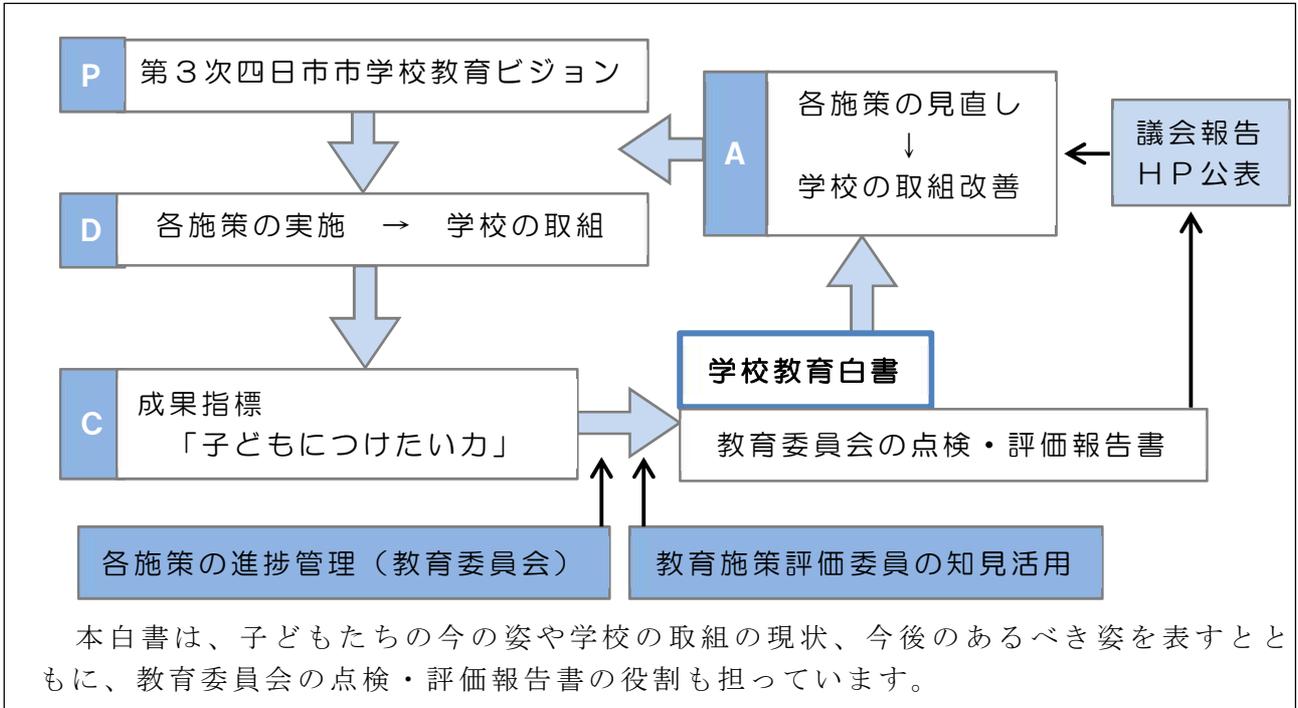


第1章 目指す子どもの姿

1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

本市では、目指す子どもの姿の実現のため、特に「子どもにつけたい力」基本目標1～3について、成果指標に基づく評価を実施しています。

また、基本目標の各教育施策については、具体的な取組指標に基づき、取組の進捗管理及び評価をしています。

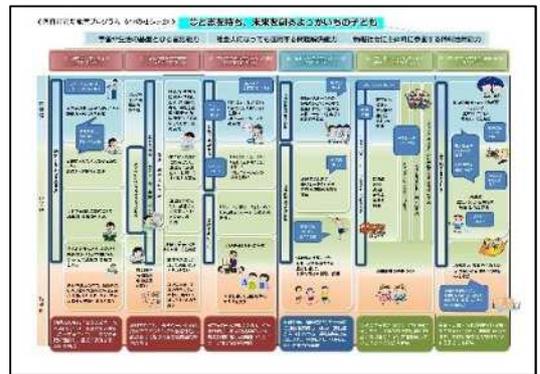


【四日市市新教育プログラムについて】

四日市市新教育プログラムは、学校教育活動におけるこれまでの取組をさらに深めるとともに、新学習指導要領への対応や超スマート社会（Society5.0）と称されるこれまでにない社会の到来などの新たな課題に向けて、言語能力、情報活用能力、問題解決能力といった必要な能力を身に付けるために、四日市市独自の新たな教育プログラムです。

このプログラムは、就学前～小学校～中学校の期間において、目指すべき子どもたちの姿を、それらのテーマ（柱）別に整理し、6つのプログラムとして系統的に組み立てることによって、教育的効果を高めることをねらいとしています。

※超スマート社会…必要なもの・サービスを、必要に応じて提供し、社会の様々なニーズにきめ細かに対応でき、年齢、性別、地域、言語といった違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らせる社会



《 6つのテーマ（柱） 》

柱1	読む・話す・伝えるプログラム	新プロ1
柱2	論理的な思考で道筋くっきりプログラム	新プロ2
柱3	英語でコミュニケーション IN 四日市！プログラム	新プロ3
柱4	運動大好き！走・跳・投 UPプログラム	新プロ4
柱5	夢と志！よっかいち輝く自分づくりプログラム	新プロ5
柱6	四日市ならではの地域資源活用プログラム	新プロ6

本冊子では、関連する施策について、**新プロ1**のように口囲みで表記しております。



2 基本目標の達成状況

第3次学校教育ビジョンの「子どもにつけたい力」基本目標1～3について、成果指標に基づいた評価を実施します。

(1)「基本目標1 確かな学力の定着」の達成状況

①基礎的・基本的な知識及び技能の定着

成果指標		現状値 ^{※1}	H28	H29	H30	R1	R2 ^{※2}	R3	目標
①	全国学力・学習状況調査結果 (小6…国A、国B、算A、算B、理) (中3…国A、国B、数A、数B、理) 全国平均値を100としたときの全科目の市平均値	小 97.4	100.5	100.0	100.4	98.9	-	100.1	102
		中 101.3	102.0	102.1	100.8	102.5	-	101.9	105

※1 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

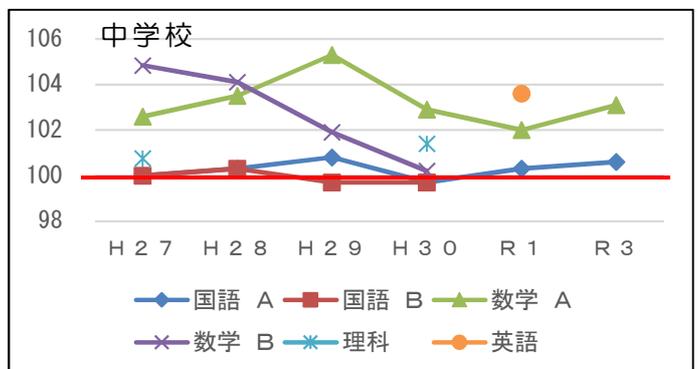
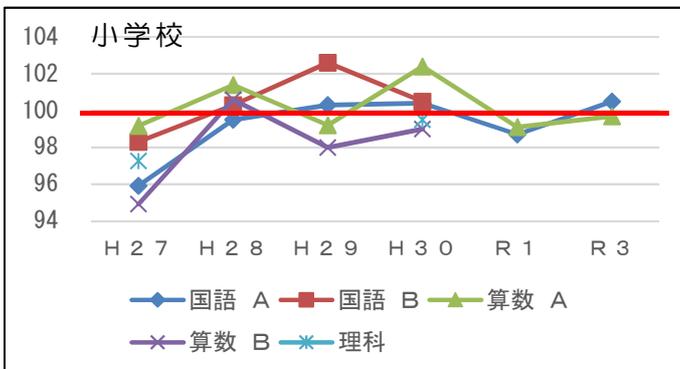
※2 令和2年度は、調査実施時期（4月）において、新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大に伴い、全国学力・学習状況調査が実施されませんでした。

基礎的・基本的な知識及び技能の定着については、全国学力・学習状況調査結果における全国平均値を100としたときの全科目の市平均値を成果指標とし、小学校102、中学校105を目標値としています。

令和3年度、小学校においては、国語、算数ともに全国平均値と同等の結果となりました。中学校においては、国語、数学ともに全国平均値を上回る結果となりました。とくに、中学校数学においては、3ポイント上回っていることから、本市の強みとなっています。本市では、「学びの一体化」の取組において、指導方法や指導体制を共有することにより、学力の向上や授業の質の向上につなげており、各教科ともに、義務教育段階修了時において、全国と同等、あるいはそれ以上の力を身に付けているということが分かります。

第3次四日市市学校教育ビジョン期間の経年変化を見ると、小学校では、少しずつ全国平均値に近い状況に、また、中学校では、概ねどの教科においても全国平均値を上回るような推移となりました。とくに中学校数学や英語で全国平均値を大きく上回るなど、本市の強みとなっています。

全国値を100としたときの本市結果の経年変化（平成27年度～令和3年度）



Aは、主として「知識」に関する問題。Bは、主として「活用」に関する問題。理科は3年ごとに実施。
※平成31年度（令和元年度）から「A知識」と「B活用」を一体的に問う問題形式で実施。



第1章 目指す子どもの姿

2 基本目標の達成状況

②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力

成果指標		現状値*1	H28	H29	H30	R1	R2**2	R3	目標	
②	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	63.2 (全国66.9)	67.9 (68.3)	67.3 (68.2)	77.6 (77.7)	73.1 (74.1)	80.8 (県78.5)	79.1 (78.8)	80
		中	65.6 (全国62.9)	67.0 (64.8)	66.3 (64.8)	79.3 (76.3)	78.2 (72.8)	82.3 (県78.9)	81.6 (77.8)	80

※1 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

※2 令和2年度()内数値…三重県の割合

知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成では、全国学力・学習状況調査の質問項目「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校、中学校とも80%を目標値に設定しています。

令和3年度は、小学校、中学校ともに全国平均値を上回り、過去5年間において最も高い値となった令和2年度の状況を同等のほぼ結果となり、中学校においては、2年連続で目標値の80%を上回る結果となりました。授業では、児童生徒が、対話を中心とした話し合いや学習者用タブレット端末を活用した意見交流などを通して、自分の考えを深めたり広めたりすることを実感していることがわかります。



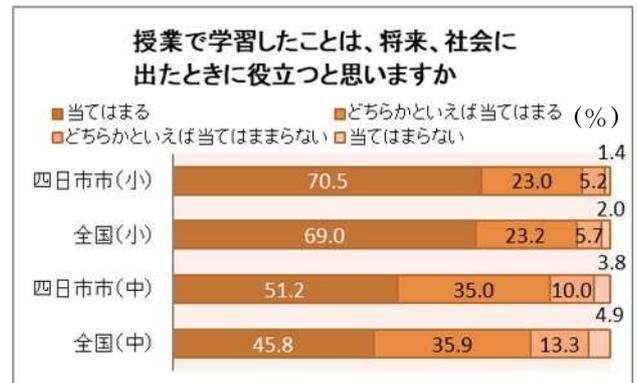
③学ぶことと社会とのつながりを意識しながら主体的に学習に取り組む意欲と態度

成果指標		現状値*	H28	H29	H30	R1	R2*	R3	目標	
③	「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	89.5 (全国89.5)	91.4 (89.6)	90.0 (88.5)	92.0 (90.3)	92.9 (91.9)	-	93.5 (92.2)	95
		中	79.3 (全国78.4)	81.3 (78.1)	83.0 (77.9)	78.8 (72.9)	86.3 (82.1)	88.8 英語のみ	86.2 (81.7)	85

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査の質問項目「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」において肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校95%、中学校85%を目標値に設定しています。令和3年度は、肯定的な回答について、小学校では1.3ポイント、中学校では4.5ポイント上回る結果となりました。

特に中学校で全国平均値より高い割合となったことから、授業において実生活と関連付けた内容に取り組んでいることが伺えます。



(2)「基本目標2 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成」の達成状況

①自律的に活動する力、規範意識

成果指標			現状値*1	H28	H29	H30	R1	R2**2	R3	目標
①	「学校のきまり(規則)を守っていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	91.1 (全国91.1)	91.1 (91.5)	92.9 (92.6)	89.0 (89.5)	92.1 (92.3)	89.8 (県88.6)	—	95
		中	95.3 (全国94.4)	96.5 (94.7)	97.1 (95.2)	96.9 (95.1)	97.8 (96.2)	96.3 (県96.1)	—	97

※1 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

※2 令和2年度()内数値…三重県平均値

全国学力・学習状況調査の質問項目「学校のきまり(規則)を守っていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校95%、中学校97%を目標値に設定しています。

令和3年度は、全国学力・学習状況調査の質問項目から削除されたため、数値はありませんが、第3次四日市市学校教育ビジョン期間において、全国平均値や三重県平均値を上回る結果となっていることから、本市の強みであることがわかります。引き続き、日々の学校生活において、基本的な生活習慣や規範意識を身に付けることを大切にします。

②豊かな感性、優しさ、思いやり、多様性を尊重し他者と協働しながら創造的に生きる態度

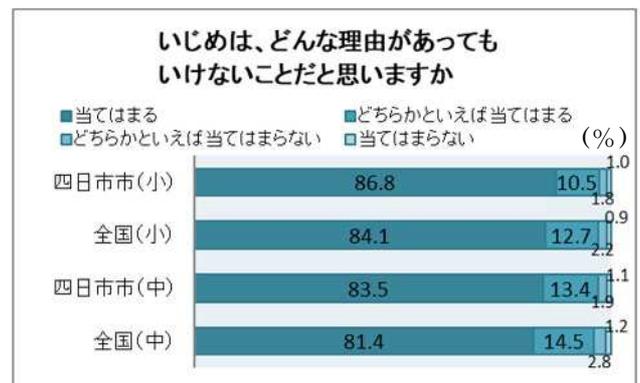
成果指標			現状値*1	H28	H29	H30	R1	R2**2	R3	目標
②	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	96.5 (全国96.2)	97.9 (96.6)	96.6 (96.1)	97.9 (96.8)	97.4 (97.1)	97.3	97.3 (96.8)	100
		中	93.3 (全国93.7)	93.0 (93.6)	92.5 (92.8)	96.3 (95.5)	95.7 (95.1)	97.3	96.9 (95.9)	100

※1 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

※2 全国学力・学習状況調査が実施されなかったため、本市調査結果の数値のみ記載

全国学力・学習状況調査の質問項目「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校、中学校とも100%を目標値に設定しています。

令和3年度は、中学校では、前年度より0.4ポイント下がりましたが、小中学校ともに、全国平均値を約1ポイント上回る結果となりました。これまでと同様に、いじめは、絶対に許されないということを理解し、全教育活動を通じて、学校生活の中で実践できるよう粘り強く指導していきます。



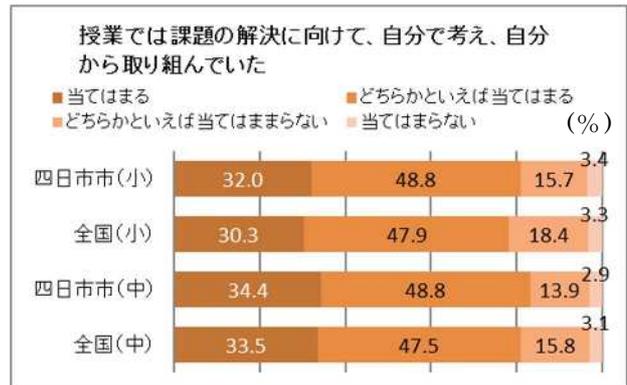
③ものごとを最後までやり遂げる粘り強さ

成果指標		現状値*	H29	H30	R1	R2	R3	目標	
③	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小 (全国 77.8)	79.5 (77.9)	78.7 (76.7)	77.8 (77.7)	77.9 (77.7)	77.5 (県 74.4)	80.8 (78.2)	80
		中 (全国 73.8)	77.2 (74.9)	79.0 (73.8)	76.3 (74.8)	80.5 (73.0)	74.2 (81.0)	83.2 (81.0)	85

※ 現状値は、平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果（小学校 6 年生・中学校 3 年生対象）

全国学力・学習状況調査の質問項目の「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校 80%、中学校 85% を目標値に設定しました。

令和 3 年度は、小中学校ともに、全国平均値を上回るとともに、過去最高値となりました。また、小学校においては、目標値の 80% を超える結果となりました。児童生徒が主体的に考え、取り組むことができるように、授業において、問題意識を持たせる、一人では解決できないような課題を提示するなど、問題解決能力向上のための具体的な手立てを講じてきたことが、効果的であることが考えられます。また、コロナ禍において、タブレット端末を活用した自主的な学習に取り組むことも、肯定的な回答につながったと考えられます。



④豊かな人間関係を育むためのコミュニケーション能力

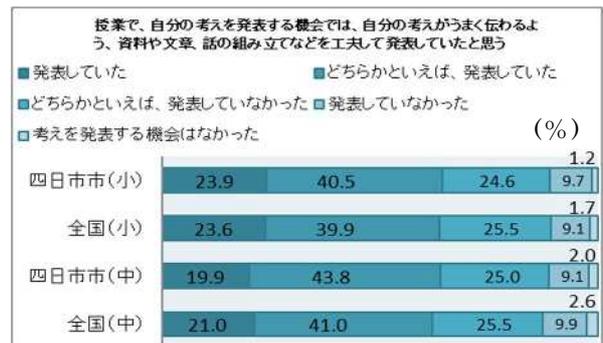
成果指標		現状値*1	H29	H30	R1	R2*2	R3	目標
④	「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う」において肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小 (全国 64.2)	64.4 (64.9)	65.8 (61.0)	60.8 (62.5)	71.8	64.4 (63.5)	70
		中 (全国 57.7)	59.7 (57.9)	59.9 (53.8)	54.9 (55.8)	75.4	63.7 (62.0)	62

※1 現状値は、平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果（小学校 6 年生・中学校 3 年生対象）

※2 全国学力・学習状況調査が実施されなかったため、本市調査結果の数値のみ記載

全国学力・学習状況調査の質問項目の「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校 70%、中学校 62% を目標値に設定しています。

令和 3 年度は、小中学校ともに、全国平均値は上回っているものの、昨年度と比較する



第1章 目指す子どもの姿

2 基本目標の達成状況

と約7ポイント減少しました。

これは、コロナ禍において、授業の中で全体への発言の機会が減るなど、環境の変化も要因であると考えられます。そのような中でも、一人一台学習者用タブレット端末の配備や校内の通信環境の整備に伴い、オンラインによる教育活動が可能となったことで、発表の場面や手段も増え、授業でも取組が進んできています。今後も、自分の思いや考えを相手に的確に伝えることができるよう、学習者用タブレット端末の活用やオンラインによる活動の工夫も含め、児童生徒の考えや意見を発表する場を設けるなど、適切に表現する力の育成を推進します。

(3)「基本目標3 健康・体力の向上」の達成状況

①生涯を通じて心身ともに健康でたくましく生きるための体力

成果指標		現状値 ^{※1}	H28	H29	H30	R1	R2 ^{※2}	R3	目標	
①	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 児童生徒の総合評価（A～Eの5段階）で3段階以上（A～C）の児童生徒の割合（%）	小	男子 66.9 (全国 70.1)	67.4 (70.3)	71.0 (71.2)	71.1 (71.2)	69.8 (68.8)	-	60.3 (63.9)	75
			女子 70.2 (全国 75.1)	74.0 (76.3)	75.3 (77.0)	76.9 (77.5)	76.4 (76.2)	-	70.7 (72.3)	75
		中	男子 74.2 (全国 71.1)	72.7 (71.8)	73.0 (71.7)	74.4 (72.3)	67.6 (69.8)	-	73.4 (67.3)	75
			女子 85.5 (全国 86.6)	89.8 (87.5)	90.2 (88.1)	91.0 (89.2)	88.8 (88.4)	-	85.9 (84.7)	90

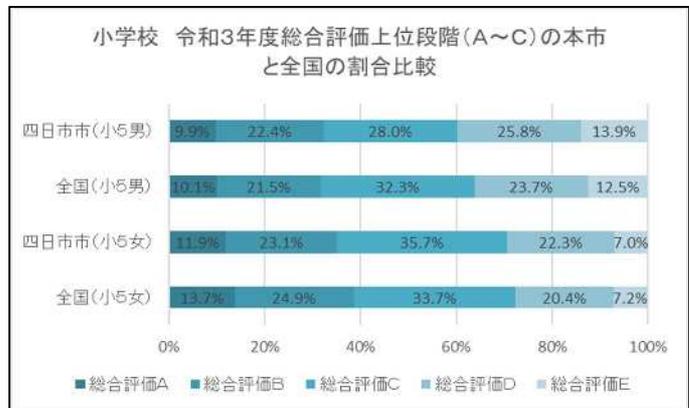
※1 現状値は、平成28年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

※2 全国学力・学習状況調査が実施されなかったため、数値の記載はありません。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査児童生徒の総合評価（A～Eの5段階）で3段階以上（A～C）の児童生徒の割合を指標とし、小学校及び中学校男子において75%を、中学校女子において90%を目標値に設定しています。

○小学校の状況

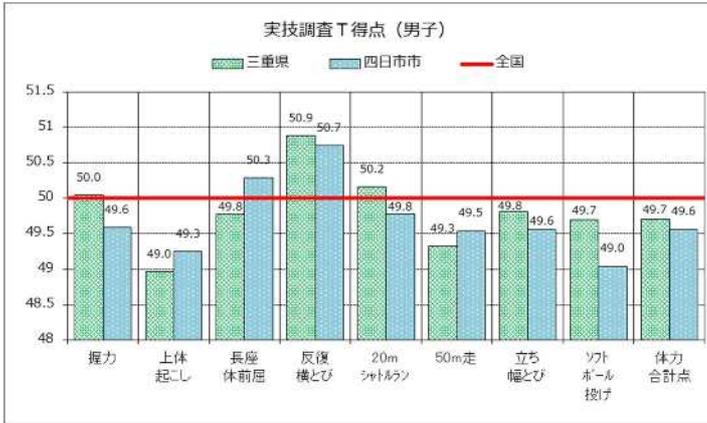
男子では総合評価A～Cの生徒の割合は60.3%（全国比マイナス3.6ポイント）、女子では70.7%（全国比マイナス1.6ポイント）となり、男女ともに全国平均値を下回りました。コロナ禍において、全国的にも数値が下がる中、本市においても、思い切り体を動かして運動を行う、また、仲間と関わり合いながら運動を行うなどの機会が少なくなったことが要因の一つであると考えられます。引き続き、学校では、コロナ禍における児童の体力向上に係る取組を工夫するとともに、家庭や地域と連携した取組なども行っていく必要があります。





第1章 目指す子どもの姿

2 基本目標の達成状況



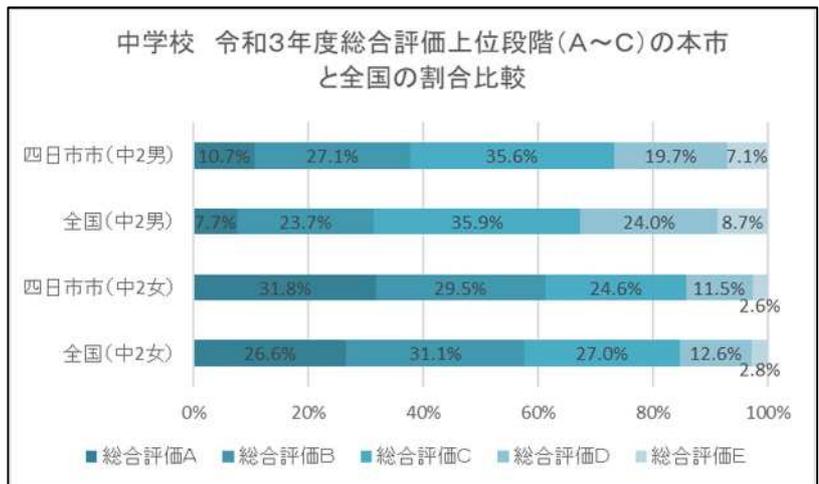
小学校 実技調査種目別の全国・三重県との比較
 ※T得点：全国平均値を50として差を明確に表示したもの

種目別に見ると、男女ともに反復横跳びについては、全国平均値を大きく上回っていることから、俊敏性の高さが本市の特徴であるといえます。しかし、依然として走・投の力や上体起こしに必要な筋力については、全国平均値を下回っていることから、本市の小学生にとって課題となっている種目であるといえます。

本市の特徴である俊敏性の高さは、体育の授業においては、体づくり運動領域やボール運動領域、陸上領域などで、活動をとおして子どもたちが体の使い方や動き方を身に付けることができていると捉えることができます。課題となっている走・投の力や上体起こしに必要な筋力については、日常生活の中で、思い切り走ったり投げたりする環境が少なくなってきたことや、陸上運動領域や体づくり運動領域など体育の授業において、思い切り走ったり投げたりするような場づくりを充実させきれていないことが課題と考えられます。

○中学校の状況

男子では総合評価A～Cの生徒の割合は73.4%（全国比プラス6.1ポイント）、女子では85.9%（全国比プラス1.2ポイント）となり、男女ともに全国平均値を上回りました。とくに、男子は全国平均値と比べると、約6ポイントも高くなっており、日常の授業の中で、体力向上に向けた取組の効果が表れていると捉えることができます。

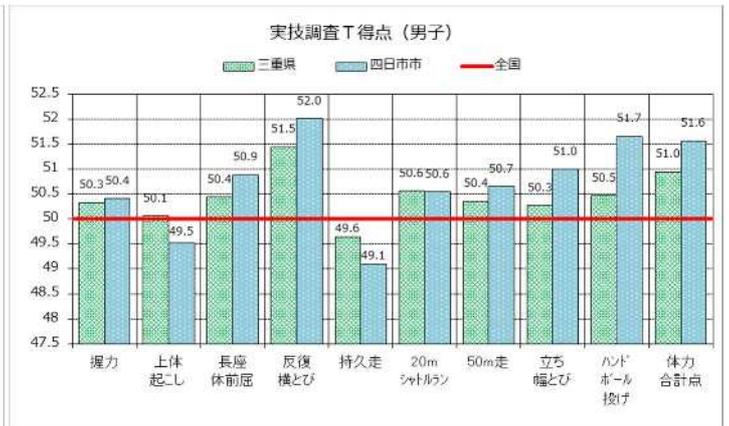
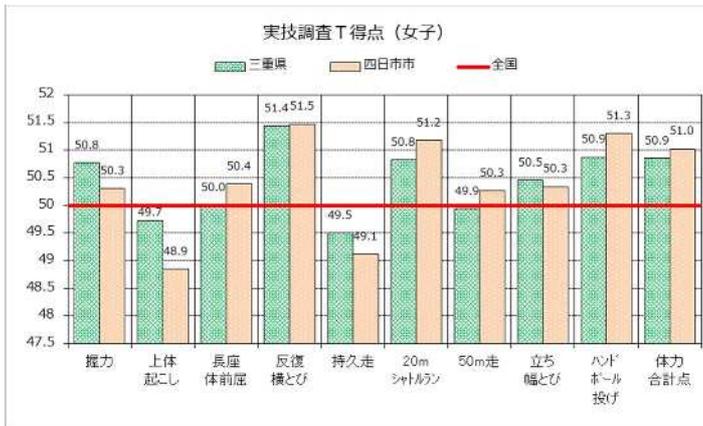


女子においては、A判定のみが全国平均値を上回っていることから、運動が得意な生徒と苦手な生徒の二極化の傾向がみられます。各種目ともにバランスよく力を付ける取組を行う必要があります。



第1章 目指す子どもの姿

2 基本目標の達成状況



中学校 実技調査種目別の全国・三重県との比較

※T得点：全国平均値を50として差を明確に表示したもの

種目別に見ると、中学校男女ともに握力、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げについては全国平均値を上回っています。反復横跳びについては、小学校男女とも全国平均値を超えていることから、四日市市の子どもたちは比較的、俊敏性が高いといえます。一方、男女ともに、上体起こし、持久走については、全国平均値を下回る結果となりました。とくに走ることににおいては、小学校でも全国平均値を下回っていることから、本市の小中学生にとって課題となっている種目といえます。中学校では、過去の数値を見ても、継続して俊敏性や投てき力が高いことから、体育の授業や運動部活動をとおして、これらの力を効果的につけるような取組が成果として表れてきています。

②運動やスポーツに親しむ気持ち、発達段階に応じた運動習慣

成果指標		現状値※1	H28	H29	H30	R1	R2※2	R3	目標
② 「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか」において、「好き」と回答をした児童生徒の割合（％）	小	男子 75.0 (全国 74.0)	71.3 (73.0)	74.6 (73.2)	71.5 (72.9)	71.3 (71.2)	-	66.2 (67.9)	80
		女子 56.3 (全国 56.4)	54.2 (56.7)	53.2 (56.4)	51.0 (55.5)	52.0 (55.5)	-	49.6 (53.1)	60
	中	男子 66.3 (全国 65.0)	65.3 (63.6)	63.5 (63.4)	61.0 (63.5)	63.5 (62.9)	-	62.3 (60.6)	70
		女子 49.3 (全国 48.0)	50.0 (46.9)	46.0 (47.1)	45.3 (47.5)	44.3 (46.9)	-	43.7 (43.0)	53

※1 現状値は、平成28年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

※2 全国学力・学習状況調査が実施されなかったため、数値の記載はありません。

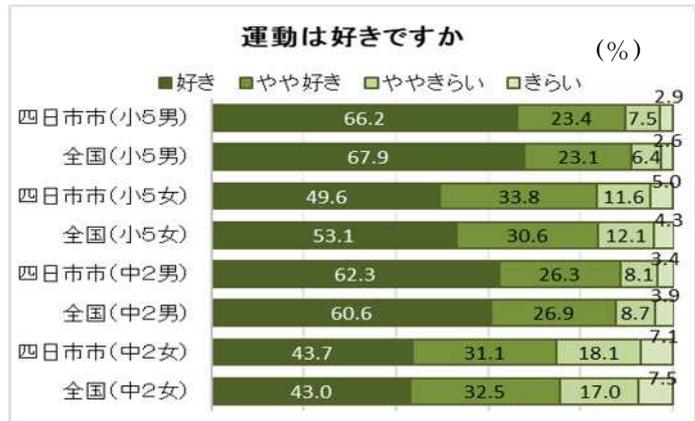
第1章 目指す子どもの姿

2 基本目標の達成状況

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の質問項目「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。」の問いに対して「好き」と答えた児童生徒は、中学校は男女ともに全国平均値を上回りましたが、小学校については、全国平均値を下回りました。

平成27年度をピークに年々、「運動が好き」と答える児童生徒が下方傾向にあり、運動することなど日常的に体を動かすことについては、コロナ禍における

運動に関わる環境変化の影響もあり、課題となっています。子どもたちが体育科・保健体育科の授業や学校行事、休み時間等の活動において、コロナ禍における取組方を工夫しながら、「楽しい」「できた」「わかった」「やってみたい」などという感覚を味わうことや達成感をもたせることなど、運動好きの子どもを育成することが必要です。



③心と体を健やかに育む基本的な生活習慣の確立

成果指標		現状値*1	H28	H29	H30	R1	R2**2	R3	目標	
③	「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合の平均値 (%)	小	89.2 (全国 88.7)	89.8 (88.8)	89.6 (88.8)	86.3 (86.8)	89.9 (89.4)	-	88.8 (88.8)	93
	中	86.0 (全国 86.9)	86.8 (86.9)	87.8 (87.1)	85.7 (85.5)	87.9 (88.0)	-	87.8 (88.4)	90	

*1 現状値は、平成28年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

*2 全国学力・学習状況調査が実施されなかったため、数値の記載はありません。

全国学力・学習状況調査の質問項目「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合の平均値を指標とし、小学校において93%、中学校において90%を目標値に設定しています。

本市の状況を見ると、肯定的な回答をした割合は、小中学校ともに、全国平均値とほぼ同等の結果となりました。

小学校では、全ての質問項目について、全国とほぼ同等の値ですが、前回の調査（令和元年度）と比較すると、約1ポイント減少しています。

中学校では、「朝食を毎日食べている割合」は全国平均を上回り、「毎日、同じくらいの時刻に起きる割合」「毎日、同じ時





第1章 目指す子どもの姿 2 基本目標の達成状況

間に寝る割合」は、全国平均値より低い値となりました。

本市では、学校、家庭、地域が連携して、子どもの生活リズムの向上を推進する取組を行っています。規則正しい生活ができている児童生徒は学力が高い傾向にあることも全国学力・学習状況調査の結果から示されています。多くの児童生徒は規則正しい生活ができていますが、今後も、家庭、地域との連携を深め、全ての子どもの生活リズム向上に向けた取組を進めていきます。

